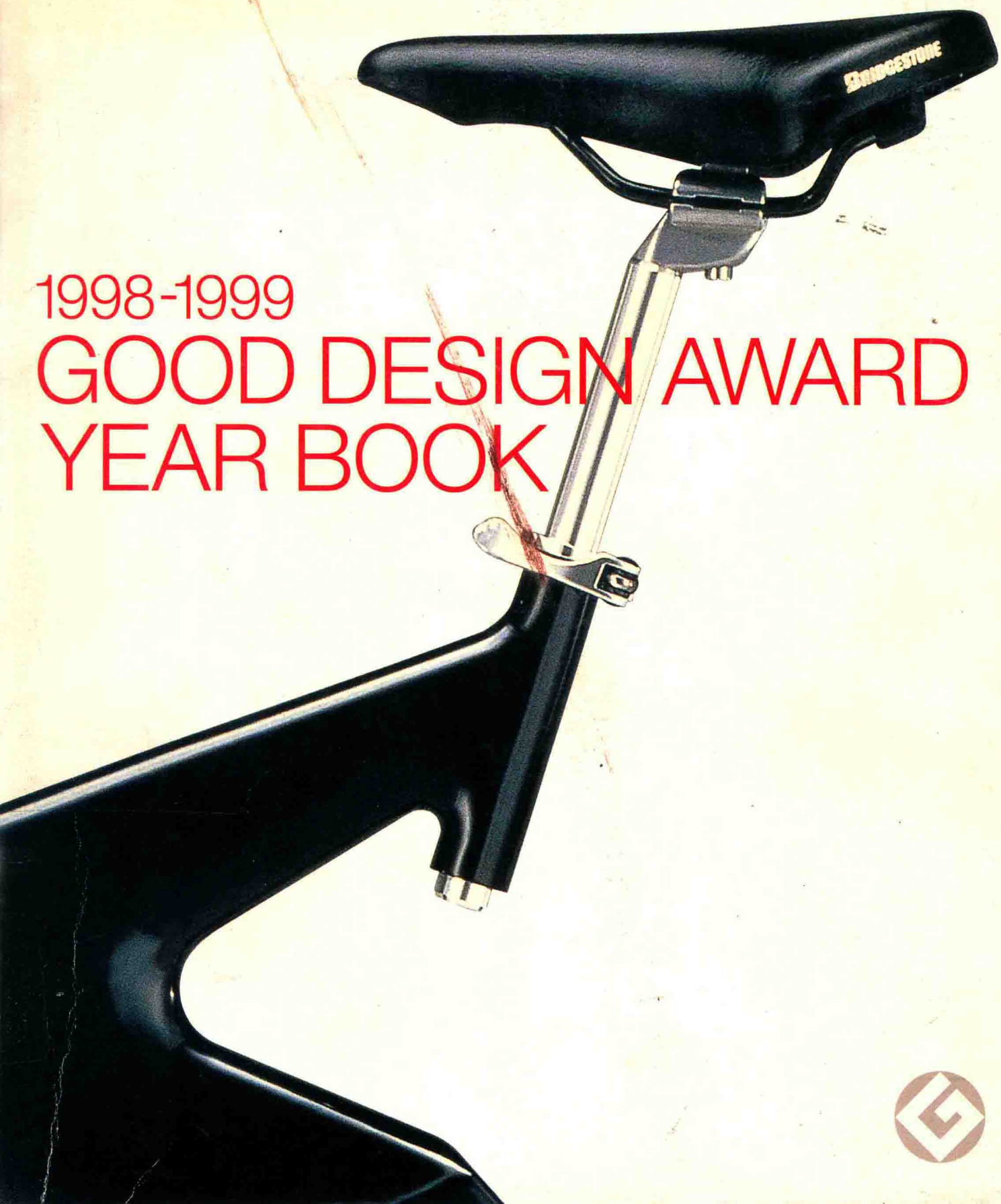


グッドデザイン 1998-1999

1998-1999

GOOD DESIGN AWARD YEAR BOOK



1998-1999
GOOD DESIGN AWARD
YEAR BOOK

グッドデザイン 1998-1999



平成10年度
グッドデザイン賞
98P0717

1998-1999 GOOD DESIGN AWARD YEAR BOOK

グッドデザイン 1998-1999

初版発行 1999年2月26日

発行人 久禮彦治
発行所 財団法人日本産業デザイン振興会
〒105-6190 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル別館4階
Tel.03-3435-5626 Fax.03-3432-7346
URL:<http://www.jidpo.or.jp/>

編集部 青木史郎／梅津隆之／矢島進二
岡部 靖／酒井良治／石橋由樹
編集協力 藤崎圭一郎／藤原えりみ
デザイン 新井達久
発売所 丸善株式会社 出版事業部
〒103-8244 東京都中央区日本橋3-9-2
第2丸善ビル
Tel.03-3272-0521 Fax.03-3272-0693
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

©日本産業デザイン振興会
本書掲載記事の無断転載を禁じます
落丁・乱丁はお取り替えいたします
Printed Japan

ISBN4-931281-19-2 C3070

1998-1999 GOOD DESIGN AWARD YEAR BOOK 目次

グッドデザイン 1998-1999

はじめに	4
1998 年度グッドデザイン賞受賞商品・施設 開発レポート集	6
グッドデザイン賞にみるデザインの今日的課題	305
グッドデザイン 42 年の歩み	346
1998 年度グッドデザイン賞審査概要	350
1998 年度グッドデザイン賞審査概要	350
グッドデザイン賞 新・「審査基準」	352
中西元男 1998 年度グッドデザイン賞 総合審査委員長	354
山田節子 1998 年度グッドデザイン賞 総合審査副委員長	356
1998 年度グッドデザイン賞部門別審査概評	358
1998 年度グッドデザイン賞受賞商品・施設 受賞企業インデックス	380

1998年度 グッドデザイン賞受賞商品・施設 開発レポート集717

生活系	6
情報系	58
設備系	90
生産系	112
輸送・公共系	126
施設	146
部門別受賞商品・施設	153
ロングライフデザイン賞	301

1998-1999
GOOD DESIGN AWARD
YEAR BOOK

グッドデザイン 1998-1999



平成10年度
グッドデザイン賞
98P0717

1998-1999 GOOD DESIGN AWARD YEAR BOOK 目次

グッドデザイン 1998-1999

はじめに	4
1998 年度グッドデザイン賞受賞商品・施設 開発レポート集	6
グッドデザイン賞にみるデザインの今日的課題	305
グッドデザイン 42 年の歩み	346
1998 年度グッドデザイン賞審査概要	350
1998 年度グッドデザイン賞審査概要	350
グッドデザイン賞 新・「審査基準」	352
中西元男 1998 年度グッドデザイン賞 総合審査委員長	354
山田節子 1998 年度グッドデザイン賞 総合審査副委員長	356
1998 年度グッドデザイン賞部門別審査概評	358
1998 年度グッドデザイン賞受賞商品・施設 受賞企業インデックス	380

はじめに

「グッドデザイン賞」は、「デザインの優れた商品・施設」を表彰する制度です。

昭和32年に通商産業省により「グッドデザイン商品選定制度」(Gマーク制度)として創設された総合的なデザイン評価制度ですが、以来40余年にわたり、約25,000点の工業製品を選定し続けて参りました。42回目を迎える本年度から、(財)日本産業デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」事業として、新たに出発いたしました。

この「グッドデザインアワード・イヤーブック」は、これまでの制度の継承にあたり発行するもので、1998年度に受賞した商品・施設すべて(717点)を掲載し、それぞれのデザイン開発ストーリー、審査にあたっての評価コメント、更にデザイン開発への指針ともなる審査委員の講評、等の情報を盛り込んでいます。

本イヤーブックがものづくりをされる方々にとって新たな商品開発を行なう上での具体的なデザイン開発のケーススタディとなり、また、日本のデザインの歩みを経年的に記載する貴重な資料集になるものと願っています。

イヤーブックの作成にあたり、開発レポートをご執筆いただいたグッドデザイン賞受賞企業の方々、また審査内容をご執筆いただいたグッドデザイン賞審査委員の方々に、心から感謝の気持ちを申し上げます。

(財)日本産業デザイン振興会

1998年度 グッドデザイン賞受賞商品・施設 開発レポート集717

生活系	6
情報系	58
設備系	90
生産系	112
輸送・公共系	126
施設	146
部門別受賞商品・施設	153
ロングライフデザイン賞	301

グッドデザイン大賞

98A0059

自転車

トランジット T20SCX

企業名=ブリヂストンサイクル株式会社/デザイナー=同社 製品設計部 川端真澄、研究開発部 後町守昭

●仕様

フレームサイズ=460mm/フレームカラー=ブラック&カーボン/フレーム体=フロント:カーボンモノコック製、リア:シャフトドライブ片持ち構造、サスペンション:エラストマー仕様、ハブ軸ストローク 56mm/前フォーク=サスペンション/シートピン=クイック式/ハンドル=シーガル型(深曲)/バー/ハンドルバー=一体式/ハンドルポスト/サドル=スポーツタイプ/タイヤ=20×1.75スリック/ブレーキ=フロント:Vブレーキ、リア:ブリヂストンオリジナル内括弧ハブ一体型/サイズ=W1,570×W580×H1,000mm/重量=14.5kg/価格=オープンプライス/発売年月日=1998.7



片持ちシャフトドライブ、カーボンモノコックフレームなどの思い切った設計により美しいシルエットを実現させると同時に、「人を元気にさせる」「人を楽しく愉快にさせる」などデザインが持つ最高の力を持ち得ている点が高く評価されました。



商品概要

この自転車はカー&サイクルというテーマのもと、カーライフを楽しんでいる大人を対象としており、車との協調によるレクリエーションや街乗りの一層の充実を可能とし、自転車に乗ることの爽快感や所有することの満足感を提供するいわば「大人のオフのための自転車」を目指しています。商品の仕様構成は軽量と剛性を併せ持つカーボンモノコックフレーム、オイル汚れから解放されかつメンテナンスフリーを可能とした片持ちシャフトドライブ(自転車として世界初)、乗り心地のよい前後のサスペンション、コンパクトで扱いやすい小径車輪(20インチ)からなります。

企画の背景

近年、地球温暖化対策が叫ばれているなか、都市内での交通手段として自転車が改めて再認識されていますが、当社はかねてから省エ

ネルギー社会の実現を目指した自動車社会の中での新しい自転車のあり方をテーマとする開発をすすめてきました。また、一方、日本の自転車市場においてはマウンテンバイクのブームも一段落、子供車や通学車は少子化にともない、市場としては減少方向にあり、また、通勤、買い物用途とした大人車は通称「ママチャリ」と呼ばれるものが数量的には大多数でそのほとんどが廉価指向の傾向にあります。それら廉価指向の状況を打開するには、新しい機能と斬新なスタイルを兼ねた魅力的な商品が是非とも必要な状況といえます。

商品コンセプト

当社は自動車社会の中での新しい自転車のあり方をテーマとする小径(車輪径20インチ)自転車の開発をすすめてきました。「トランジット」はこれらの開発中のシーズ(実用化

可能な新技術)をいわば先取りし商品化した「大人のオフのための自転車」であり、次のような大変ユニークな特徴を持っています。一つは自転車では世界初の片持ち式シャフトドライブを採用していることです。このシャフトドライブ機構は駆動部分が完全に内蔵されているため、外観もすっきりして見え自動車への車載に大変都合良く、衣服の油污れも心配ありません。しかもこのシャフト部分を片持ち式、つまり両側からではなく片側で車体と駆動部分、後車輪の支えを一体とした構造体として利用しているため大変ユニークな設計となっており、高機能をシンプルにパッケージした外観は、メカ好きモノ好きの遊びゴコロをくすぐる仕上がりになっています。二つ目はカーボンモノコックボディを採用していることです。パイプを溶接してつくる通常の自転車の車体ではなく、カーボン

シャフトユニット車
開発初期案

イメージスケッチ



イメージスケッチ



繊維を素材とした一体成形の車体を採用、軽量化と同時に必要な強度や車体剛性の確保を図るとともに従来の自転車にない斬新なデザインを実現しました。三つ目は車への積載やマンションのエレベーター内等の都市空間の使用に適したコンパクト性を実現するために、20インチ小径タイヤを採用し、後輪用に小型サスペンションを開発、前輪サスペンションとあわせて快適な乗り心地を追求しています。さらに、ロングホイールベース設計によって、タイヤ径の大きなスポーツ車にも劣らない操縦安定性を得ることができました。

デザインのポイント

車社会を含む都市空間に調和し、且つ「大人のオフ」を演出するために、走る時の爽快感、持つことの満足感にこだわり、乗ってカッコ良く、持ってカッコ良い、今までにない自転車の創造というテーマは、スポーツ車の爽快

感、街乗り自転車の乗り易さを持ったカジュアルでもスーツでも使えるような自分たちが本当に乗りたモノを造りたいという開発担当者達の日頃の思いと合致するものでした。片持ちシャフトユニットはシンプルさがデザイン上の大きな特徴であり、このシンプルさは大人の知性を表現する上でもっとも大事にした部分といえます。開発初期段階ではこのユニットを支えるフレーム本体はコストや生産性で有利な通常のパイプ構成で検討していましたがサスユニット等がむき出しになるなど外見上欠点も多く最終的にはカーボンモノコックフレームを採用することでシンプルで繊細な外観を実現することができました。フレーム形状はY型にデザインし、通常では考えられない無駄な空間をあえて利用することでカッコ良さを演出しました。またシャフトユニットを左側に配置することで降車時にタ

イヤによる衣服への汚れを防止するなどの使用環境を配慮したデザインを行いました。カラーリングはシックな黒のモノコックフレーム(一部カーボンクロス地を露出)を基調にメカ部を全てシルバーにするなどシンプルでありながら精悍で端正な雰囲気を演出し、「大人の持ち物」にふさわしい外観に仕上げています。

市場参入後の動向およびユーザー等の評価
発売当初から好評で、自動車、アウトドアなどの雑誌で紹介された事などもあって三十代から四十代の大人のユーザーからの問い合わせも多く、すでに購入済みも含め概ね想定していたユーザー層に評価されています。また販売経路も従来の自転車販売店に限らず自動車関連のショップや通信販売など、今までとは違った販路からも注目されています。

●ブリヂストンサイクル株式会社 製品設計部 黒岩立治

98D0260

オープン電子レンジ

National NE-J1, NE-J2,NE-J3

企業名=松下電器産業株式会社/デザイナー=同社 電化・住設社 デザインセンター 三上彰雄

●仕様

電子レンジ=消費電力:1.38kw(600W出力時は1.1kw)、高周波出力:800・600~100w相当/オープン=消費電力:1.32kw(NE-J1)、1.29kw(NE-J2)、1.40kw(NE-J3)、ヒーター出力:1.26kw(NE-J1)、1.25kw(NE-J2)、1.36kw(NE-J3)、温度調節範囲:発酵:110℃~300℃/グリル=消費電力:1.30kw(NE-J1)、1.29kw(NE-J2)、1.40kw(NE-J3)、ヒーター出力:1.26kw(NE-J1)、1.25kw(NE-J2)、1.36kw(NE-J3)/色=シャンパンゴールド(NE-J1)、パールグレー・メタリックグレー(NE-J2、NE-J3)/サイズ・重量=W450×H356×D527mm・24.5kg(NE-J1)、W450×H356×D481mm・22.0kg(NE-J2)、W413×H333×D449mm・17.5kg(NE-J3)/価格=120,000円(NE-J1)、102,000円(NE-J2)、82,000円(NE-J3)/発売年月日=1998.8.20(NE-J1)、1998.9.20(NE-J2)、1998.11.1(NE-J3)/年間発売数量=各120,000台(NE-J1、NE-J2、NE-J3)



造形に美しさと品格があり、楽しく見やすいピクトグラムのボタンを採用するなど、多機能化に伴い操作が複雑な商品が多い中で真に人に優しいインターフェイスを開発し、電子レンジの新しいかたちをつくり出すことに成功した点が高く評価されました。

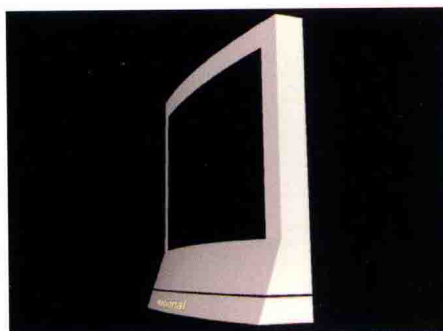
商品概要

この商品は、省スペース性と操作性に配慮した一般家庭向けの本格オープンレンジです。あたため、解凍、オープン料理ができ、かつ健康に配慮したメニューも搭載しています。

企画の背景

電子レンジの国内総需要台数は、10年~12年前の普及拡大期からの買い換え需要の顕在化により、96年度は358万台、97年度は352万台と、過去最高値で推移しています。しかし、普及価格帯商品の増加に伴い、平均単価は年々下降傾向となっております。

その中でもオープンレンジの構成は、約75%にまで拡大しています。しかし、生活者の使用実態・頻度を見ますと、ごはん・おかずの再加熱や生もの解凍がほとんどであり、オープン機能はあまり使われておらず「再現器」としての域から抜けきれていないのが現状で



初期スケッチ

す。

この商品は、単に「あたため」「解凍」専用機器としてではなく、台所に必須の「調理器」として、積極的に使いこなせることを意図しました。即ち設置スペースを気にせず、本格サイズのオープンとして、コンパクト化と機能性を徹底追及した、従来にないデザインのオープンレンジとして開発しました。

商品のコンセプト

この商品は、大きな食材でも、よりゆったりと調理できるよう、本体体積を変えることなく、庫内容積を10%(当社製品比)拡大しました。庫内拡大の一方、生活者の高い省スペースニーズに対応するため、徹底した小型化を図っています。特に設置面積は、小型化した制御部品を、本体の底面に配置するとともに、操作部(操作パネルとスイッチ基板)をドアの表面に取りつけることにより、全体積も

10%(当社製品比)小型化しました。

また、昨今関心の高い「健康」指向に応えるため、食材本来の旨味・栄養分等を活かした「健康メニュー(オート調理)」を24種類(「カルシウムたっぷり」「低コレステロール」「胃腸にやさしい」「ビタミンたっぷり」「食物繊維たっぷり」等)搭載しました。この商品の特徴であるインバーター電源の出力可変技術を活用し、家庭用レンジで初めて、素材に適した温度帯で調理するプログラムを採用しています。

調理時間の短縮化や個食化の定着等、最近のトレンドを踏まえ、一品5~10分と短時間でできるレンジの「はやわがメニュー」をオートで16種類搭載しました。

業界最高の800W出力で調理時間を短縮すると同時に、待機電力のゼロ化に加え、インバーター電源の持つ高効率性を活かし、省エ



試作モデル



操作パネル

エネルギーについても配慮した商品です。

デザインのポイント

「ジャストオープンサイズ」を基本コンセプトに、庫内がワイドでありながらコンパクトな外観を実現しました。本体デザインは、限られたキッチンスペースで壁にぴったりつけられる、キュービックでシンプルな形状とし、扉の開け方はオープン皿が一時置きできる縦開き、しっかり握れるグリップハンドルを採用しました。

操作については、「フルドアレンジ」をキーワードに、従来、本体右側にあった操作部を扉部に設け、ゆったりしたレイアウトで使いやすいキー配列とし、かつ角度も設けました。よく使うワンタッチ自動操作キーは横一列に配置し、誰にでもわかり易く、料理する楽しさを演出するため、チャームングでかつ精緻感のある料理イラストピクトで表現しま

した。また、操作部の文字の大きさについても加齢配慮の視点からできるだけ大きくしました。

液晶部の文字も大きく読みやすくし、操作手順や、誤操作・誤使用をお知らせする「お知らせナビ」機能も盛り込み、操作性を向上させています。

本体カラーについても高級感のあるシャンパンゴールドを採用しました。

市場参入後の動向およびユーザー等の評価
現在、市場では従来のオープンレンジにない新鮮なイメージの商品として注目されています。

省スペース設置で、30リットルの大容量な庫内が魅力で購入したという評価が購入者の愛用者ハガキで返ってきています。また支持されたポイントでは省エネ・省スペース、豊富な機能・調理ソフト、手入れのしやすさが上

位にあがっています。

ラインナップとしても、スイングヒーター搭載で2段階調理や4面包み焼きができるNE-J1、一段調理のNE-J2、さらにコンパクトなNE-J3のシリーズ展開をはかっています。

●松下電器産業(株) 電化・住設社 デザインセンター

98J0430

エンハンススピーカー

Panasonic EAB-AE70

企業名=松下電子部品株式会社/デザイナー=松下電器産業株式会社 総合デザインセンター 川村 健

●仕様

アンプ定格出力=5W/周波数帯域=2kHz、~10kHz、/出力音圧レベル=85dB/W、m/指向特性=-15dB/30°、3kHz、/消費電力=12W(スタンバイ時2W)/電源電圧=DC12V(付属ACアダプター)/適応聴力レベル=軽度難聴まで(40dB程度まで)/サイズ=W388xH96xD161mm(回転台使用時H141mm)/重量=1.5kg(ACアダプター除く)/価格=39,000円/発売年月日=1997.10.21/年間発売数量=10,000台



狭指向性の技術を活かし、高齢者や難聴等の障害者が、健常者と同じ空間を共有できるように配慮された商品開発と、それをコンパクトでさり気ないスタイルにまとめている点がユニバーサルデザインとして高く評価されました。

商品概要

音声の明瞭度を改善するための補聴用スピーカーで、音声明瞭度に影響を与える子音が多く含まれる高音域の強調処理回路と、狭い範囲にのみ音を放射する狭指向性スピーカーから構成されています。

高齢者など高音域聴力の聞こえ障害を持つ人が、健聴者と一緒にTV等を視聴する場合、本機をTVに接続することにより、TV本体の音量は健聴者に合わせたレベルで、かつ周りの人への本機からの影響をほとんど与えない状態で、聞き取りやすい音で楽しむことができます。

また、聞こえ障害のない人の場合でも、TVでの映画の音声、よりはっきりと聴取でき、あるいは周囲の騒音の大きい場合でもTV本体の音量を上げずに聞き取ることができるなど、広範囲な使用が可能な高音域補聴用ス

ピーカーシステムです。

企画の背景

近年、高齢化社会の進展により、加齢による軽度難聴者(主に高音域の聞こえ障害を持つ人)の増加傾向が予測されています。

こうした中で二世帯住宅をはじめ、一般家庭でのテレビ音声を中心に潜在的課題として聴力アシストが要望されていますが、軽度難聴者や、正常域ではあるがやや聞こえにくいという人においては、耳に装着する煩わしさからイヤホンやヘッドホンを使用せず、テレビ音量を上げて聞こえを改善するため、同席者は大音量に困惑しているのが現状です。

本製品は、軽度難聴者までの聞こえ障害を持つ人を主な対象とし、業界初の開放空間型の聴力アシスト機器として、狭指向性技術をベースに周囲の人にも迷惑をかけずに聞こえを改善できる補聴用スピーカーを企画・開発

しました。

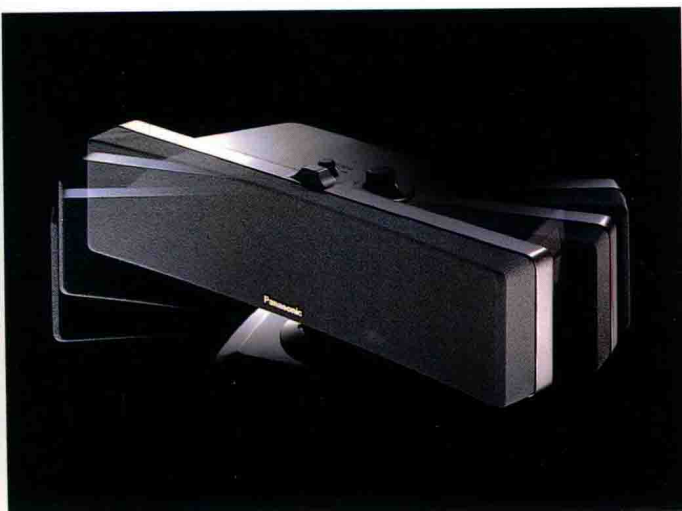
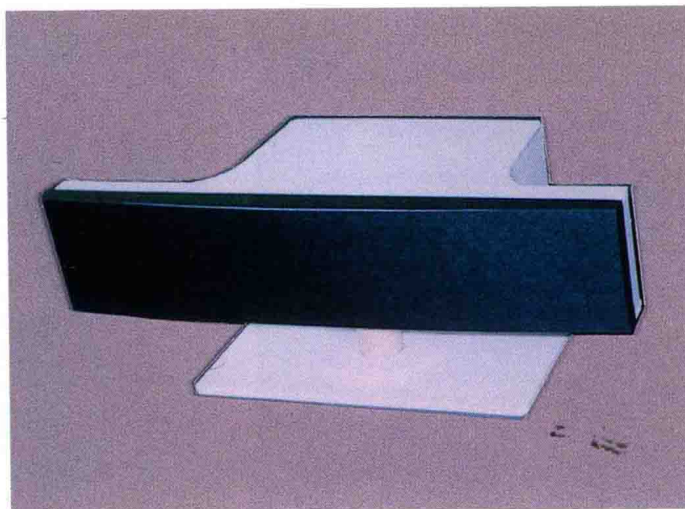
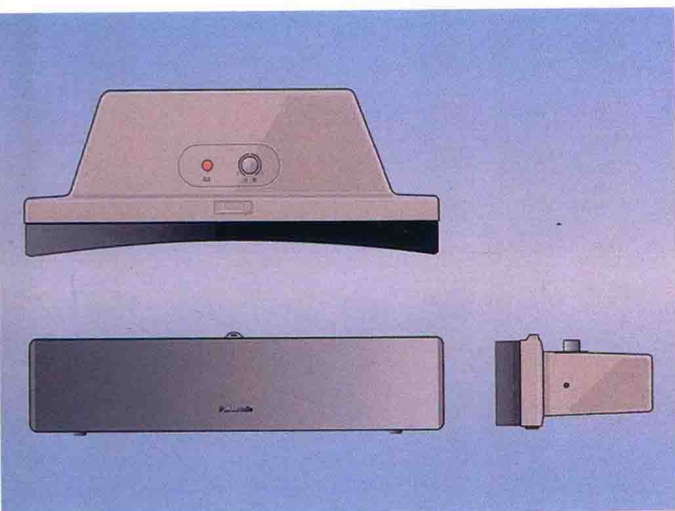
商品コンセプト

【商品の狙い】 高齢者など高音域の聞こえ障害を持つ人の音声聞き取りを補い、またイヤホン等でなく開放空間音場においての使用を想定したスピーカータイプで、耳への装着の煩わしさをなくし、かつ健聴者と一緒に視聴が可能な狭指向性を実現できる補聴用スピーカーシステムです。

【商品の特徴】 音声明瞭度を改善できる子音強調型特性をもつ補償回路を採用するとともに、水平方向には狭く、垂直方向には広がっている使いやすい受聴エリアをもつ狭指向性スピーカーシステムです。使用者の方向に自由に向きを変えられる回転台を付属する一方、操作が容易な大型ツマミを採用したシンプルな構造を採用しました。

【想定ユーザー】 (高齢者等)聞こえ障害を





持つ人を想定ユーザーとしました。

健聴者の使用の場合、騒音レベルの高い場所での補聴用として、あるいは特に音声をはっきりと聞き取りたい場合(例えばTV映画のセリフ等)の補聴用としても使用できます。

【環境への配慮】 電源スイッチ切り忘れ時の電力消費を改善するための機能として、音声信号が一定期間入力しなくなれば、節電モードに切り替わるスタンバイ機能を搭載しました。

デザインのポイント

(1) 薄型で安定感のあるフォルム、回転台でスピーカを向けた方向に音声フォーカスするイメージを、前面のクロスネット部に凹型シェーブをつけることにより形象化をはかったシンプルなデザインを採用しました。

(2) 大型の電源ボタンと音量調節のみの簡単操作により、高齢者の使用に配慮しました。

(3) 単体で主張することなく、家庭のテレビや使用環境にとけ込めるさりげない、ひかえめな機器カラーを採用しました。

(4) 置場所に困らない軽量・コンパクトな省スペースサイズです。

以上をデザインのコンセプトとしました。

市場参入後の動向およびユーザー等の評価

(1) 家族と一緒にテレビを楽しんだり、日常会話を楽しむという目的で、FMワイヤレス補聴器、コードレスヘッドホン、携帯用会話増幅聴力補強ツールなどが、従来からの補聴器以外の聴力アシスト機器として、本商品の発売と前後して市場へ参入しているものの、同一コンセプト商品は未だない状況です。

(2) 耳や聴力という切り口で、聴力アシスト機器の市場動向を解説した新聞の特集記事や、テレビでの耳や聴力の特集番組、あるいは耳や聴力に関する啓蒙書が新たに発行さ

れるなど、最近当分野への関心がかなり高まりつつある状況です。

(3) バリアフリーや福祉機器の各種展示会、キャンペーン、各マスコミ媒体、また商品の販売店では、業界初の商品とあって常に話題となり注目を集めています。

(4) 使用者からもテレビが楽しめるようになったと好評を博しています。

●松下電子部品株式会社 スピーカ事業部技術部
新規開発グループ 小西 周平

98G0394

回転椅子

ヴィトラ メダチェア 417-002-02

企業名=Vitra International AG/デザイナー=Alberto Meda

●仕様

機能=ガススプリングによるシート昇降調節、ガススプリングとコイルスプリング併用によるリクライニング調節/素材=脚5本:ダイキャストアルミ研磨仕上げ、キャスター:ポリアミド、バックレスト:ネット・ポリエステル、シート:ポリエステル+伸縮材ラテックス、アームレスト:アルミ支柱、アームパッド:レザー張り/サイズ=W670×H970~1,090×D710mm(脚部W680/シート高390~480)/重量=15.5kg/価格=190,000円/発売年月日=1997.12/年間発売数量=40,000脚(1998年予測数量)

エコロジカルな視点を持つ商品が増えている中で、実にシンプルなデザインでありながら卓越したクオリティの高さと品位を感じる。スタンダード性を持ちながら、エグゼクティブ用として魅力あるエレガントな造形にまとめ上げた高い造形力が評価されました。

商品概要

メダチェアはヴィトラ社(ドイツ)と工業デザイナー、アルベルト・メダとの初めてのコラボレーションで生まれた、オフィスチェアおよびエグゼクティブオフィスチェア、エグゼクティブコンファレンスチェアです。

企画の背景

来るべき21世紀のあらゆるシチュエーションを確かな視点でとらえて、外観デザイン、機能、使用材料のすべてのフェーズに「NEW」を追求したオフィスチェアの創出をめざしました。また、ヴィトラ社が40年にわたってヴィトラクラシックとして製造・販売しているイームズアルミナムシリーズの現代版として開発しました。(1999年にはさらに会議用チェアに特化したミディアムバックの4脚仕様の発売を予定しています。)

商品コンセプト

シンプルデザインとシンプルメカニズムの追求により、使用材料の種類と使用量を最少におさえています。材料構成は全材料の72%にアルミニウムを使用し、リサイクルに有利で製品重量も軽くなっています。最小限のコンポーネントからなるシンプルな構造は、全体が露出していてメカニズムがわかりやすく、メンテナンスが簡単に行えます。構造と原材料は環境に対し最大限の配慮をしています。ヴィトラ社はEUにおける先進的なエコロジー推進企業であり、その事業所はすべて環境マネジメントシステムを実行してEMAS(Eco-management & Audit Scheme)の認定を受けています。開発、製造、ロジスティックス、マーケティングのすべてのフェーズで日々環境保全に適う行動をとっており、その結果は定期的にレポートを刊行して一般に公開しています。メダチェアはこういった企業

土壌から生まれました。

デザインのポイント

メダチェアはフォルムそのものが構造に不可欠なエレメントであり、スケルトンフレームからシートの裏側にいたるまであらゆる角度からの「美学」の追求が試みられています。快適な座り心地を実現するためのエンジニアリングサイドの要求を優れたデザイン力でまとめています。簡素な構造はすなわち省資源であり、オープニングメカニズムはメンテナンスを容易にして製品のライフサイクルをさらに長くします。

市場参入後の動向およびユーザー等の評価

30才代から50才代のエグゼクティブ用のチェアとして、男女問わず好評で、発売以来1年間、マーケットへの導入は好調に推移しています。

●株式会社インター・オフィス 広報 飯塚麻里

